



妙光寺住職を大導師に、40名の出座僧の大法要

開創七百年慶讃身延山大法要

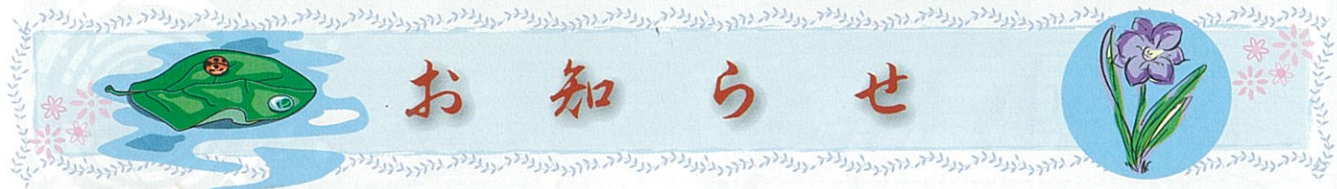
妙たえの光ひかり

復刊82号

大法要成しとげ身延初桜

作・寺尾勝子

快晴 無風 陽春の光に輝く 総本山・身延山久遠寺
弘安四年 日蓮聖人により開かれ 以来七三一年を経る
広い大本堂を 妙光寺檀信徒七百名が 埋め尽くした
「ようこそ身延山へ 開創七百年 おめでとございませす」
明瞭 暖かい 吉村布教部長のお言葉に 緊張がとけた
南無法蓮華経 々々 一同が和すお題目で
四十名の僧侶が 整然と 小川住職を中央に入堂
「我此道場」 仏様をお迎えする声明で 大法要が始まる
続いて 荘厳で力強い読経が 堂内に響く
静寂 「鼓童」の重厚な太鼓の音が 澄みきった笛の音が
御宝前で仏様に捧げる 小川住職の 慶讃文を際立たせた
天女を思わせる舞いは 厳かで 艶やかに感じられる
皆 心を一つに 七百年を感謝し 我と世界の安穩を祈る
口々に 「感動して涙が浮かびました」
生涯忘れえぬ 開創七百年大法要に会えた 喜びは大きい
小川 英爾



お知らせ

新研修生

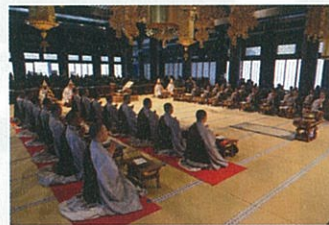
4月1日付で新しく研修生が入りました。戸田善齊君(24歳)で、千葉県市川市の遠寿院の次男です。高校卒業後アメリカの短大に進学しましたが、この度僧侶の修行を本格化するため、まず妙光寺で1年間研修することになりました。まだ正式な僧侶ではなく、半人前の沙弥(しゃみ)ですから、戸田さんと呼んでください。妙光寺ではお寺の仕事全般を研修しますが、檀信徒宅への月参り等にも伺いますのでよろしくお願いします。



TV放映日時案内

開創700年大法要の様を中心に、妙光寺の歴史、これまでの活動がテレビ放映されます。新潟県内だけですが、ぜひご覧ください。

4月27日(土)
午前11:00~11:30
BSN新潟放送



開創700年記念DVD 予約申込受付

テレビ放送用に撮影した内容に、詳しい妙光寺の歴史を加えてBSN新潟放送が新たに制作編集したDVDを販売します。1枚2,000円(送料込)。5月末までに直接お届けします。

5月10日締切りで、予約受け付けのみ制作します。

『開創700年記念手ぬぐい』お届け

開創700年記念の手ぬぐいを、全檀信徒、安穩会員宅にお届けします。開創700年法要に参加された方全員には、当日お渡ししました。この度は参加されなかったお宅へのお届けです。お受け取りください。



安穩廟増設工事着工

『社の安穩一池の上』の第2期増設工事(104区画)が、市保健所の許可を受けて着工しました。7月完成予定で、予約受付を行っています。

お大会(ご判様)4月29日

お大会(ご判様)は、例年通り4月29日午前9時~午後3時。音楽、稚児のお練りと大法要、水行等があります。高座説教は小川良恵の師匠で、鎌倉市円久寺ご住職の松脇上人です。ご都合の良い時間、どなたでも自由にお参りください。



お願い

参道工事寄付依頼

2年前に入り口の参道を舗装整備しました。その両側に植栽して景観を整え、夏は日差し除け、冬は風除けとする計画です。その費用の見通しが立たず、折に触れご協力をお願いしてきました。

これまでかなりの方々からご寄付をいただき、一部着工しましたが全体には及びません。後世に残るものですから、この度の開創700年記念として完成させたいと考え、さらに広くお願いすることにいたしました。

大法要に参加された方には依頼状をお渡ししました。それ以外の方々に今回依頼状を同封させていただきます。時節柄厳しい経済状況で心苦しいのですが、何卒ご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

あ と が き



今号は700年大法要の様子を、参加されなかった方々にも味わっていただこうと考えて特集号としました。大人数での旅でしたが、終始「700年大法要を成功させたい」という一人ひとりの思いがみなぎって、本当に気持ちのいい2日間でした。結縁という言葉の意味を実感する大法要になりました。次号も、700年の節目にふさわしい企画を考えております。

(新倉理恵子)

皆さまのご協力の賜物

小川英爾

700年の好機

妙光寺は鎌倉時代末期の正和2年（1313）に開創されました。以来今年がちょうど700年目に当たります。その慶讃大法要を総本山身延山久遠寺で、約700名が参列して盛大に催すことができました。角田浜は、日蓮聖人が佐渡島流しの際に一泊された霊地です。この縁で、日蓮聖人の孫弟子にあたる日印上人が開かれました。

700年に引っかけた総勢700名は、従来からの檀徒だけでは集まらない人数です。身延山でも、一つの寺でこの規模の参拝は前例がないとのこと。そこで新しくご縁のできた檀信徒にも参加いただき、揃って感動を共にして欲しい、そう考えた大きな挑戦でした。しかし本当に集まるのか、無事に円成できるの

か、最後まで関係者が一様に心配したことです。

また、新しい方にはなじみの薄い南無妙法蓮華経のお題目を、一緒に唱えていただけるのかという点も、正直私は不安でした。

皆さんで成し遂げた快挙

お陰様で2日間晴天に恵まれ、大きな事故もなく、見事ともいえる大法要をお勤めすることができました。「心から感動しました」は、多数の参加者から戴く言葉です。「あれだけの人数が一体になって、それを一所懸命お世話している人たちの姿に驚きました。」門前町で16代目という、お土産品を納めた饅頭屋の店主の言葉です。

「お題目は誰でもが仏になれる、だから一人ひとりが尊い、と説かれた『妙法蓮華経』というお経に帰依します、敬います、とい

う誓いの言葉です。」そんな前夜祭での私の説明と、練習の効果でしょうか、法要の席での「南無妙法蓮華経」の声は、皆さんの気持ちもこもって大迫力でした。

そして当日は、この大行事を成功させたい、そんな皆さんの願いが満ち溢れていました。また、事前にバス毎の案内係や身延山での誘導係をお願いした方全員が快諾され、真剣にお世話下さいました。70名にも及ぶので3回に分けた準備説明会では、熱心な質問や意見が多く出て、同席の旅行社が驚いたほどです。700人の大法要は、文字通り参加者の皆さんで成し遂げた快挙です。

見えない支え

今回の大法要開始直前、40名の僧侶の控室では緊張感がみなぎっていました。そのとき新潟市の長照寺住職の宮沢上人が、私に話しかけてくれたのです。「私は身延山で学んだ当時、岩間法主様にとても可愛がっていただき生涯忘れられません。今日17日は月命日ですよ。この大法要を

見守ってくださいる気がします。ありがとうございます」と。

身延山の住職は「法主」様と呼ばれ、現法主様で92世です。先々代で第90世の岩間日勇（湛良）法主様は、平成13年9月17日に94才でご遷化（僧侶の死去）されましたが、名説教師と言われとても人望の厚い方でした。妙光寺の先代住職（私の父）と親友の間柄で、先代亡き後新米住職だった私が、一番頼りにさせていただいた方です。

妙光寺参道入り口の石塔に彫った「角田山妙光寺」の文字や、安穩廟中央のお題目を書いていたいただきました。また今年1月に得度して、尼僧の道を歩み始めた私の長女、良恵に「良」の文字をいただいた名付け親でもあります。宮沢上人は、妙光寺が岩間法主様とご縁が深いことをご存じで、緊張する私に言葉を掛けてくれたのです。

檀信徒の皆さんのお力と同時に、700年間の歴代住職、皆様のご先祖、あらゆる方々の、見えない支えをいただいたと心から思える開創700年大法要でした。



大本堂を埋めた700人の参列者



快晴の空の下 仏縁を結ぶ

編集担当 新倉理恵子

数日前の寒さが嘘のような3月16日(土)の朝、新潟から14台、首都圏から3台のバスが、前夜祭会場である八ヶ岳ロイヤルホテルをめざしました。バスに乗ると、この日のために編集されたDVDが上映され、本堂に立つご様が参加者にご挨拶します。さあ、ついにこの日が来た、と胸が弾みます。

私の乗ったバスは、娘捨SAで昼食となりました。青空に雲が一片、山並みが鮮やかに見えます。ベンチで持参のお弁当を広げ、「まるでハイキングみたい。」という声も聞こえます。続いて、妙光寺のバスが二台、三台とSAに入ってきます。バス案内担当係の黄色いウィンドブレーカーが目につきます。参加者約670名は皆、胸にバス番号の名札を付けています。仲間の目印です。「久しぶりだね」「あんたも来てたね」あちこちで挨拶しあう姿がありました。休憩をとりながら午後3時すぎ、17台のバスは続々とホテルに到着しました。部屋で一息いれて皆大浴場へ。露天風呂の温泉は、湯加減も最高でした。

午後5時45分、全員が大宴会場に到着しました。6時少し前、フリーアナウンサー吉井歌奈子さんの司会で、前夜祭が始まりました。まずご前様の挨拶です。挨拶の最後に、全員でお題目の練習をしました。「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経…」初めは小さかったみんなの声は、次第に大きくなっていきました。吉田錬勝前日蓮宗新潟東部宗務所長のご祝辞に続いて、サプライズゲストが登場しました。落語家の三遊亭圓歌師匠です。「山のあな、あな…」で一世を風靡した師匠は、実は30年前に出家した日蓮宗の僧侶でもあります。その御縁で、前夜祭の席に駆けつけてくださったというわけです。30分間師匠の話術にはまって、会場は爆笑の連続でした。楽しい気分になったところで、大滝剛総代の音頭で乾杯。和やかな宴会でした。一時間後、高橋英一総代の迫力ある三本締めで中締めしました。その前にご前様の長女良恵さんのご挨拶がありました。得度して髪をおろしたばかりの初々しい良恵さんは「私が一人前になるまで、皆さん長生きしてください。」と挨拶しました。

夜はホテルの最上階から星を眺める人、ロビーの特設バーで飲み続ける人、ホテルは貸し切りですから知らない人でも気軽に声をかけあって、楽しく過ごしました。

翌17日(日)。いよいよ大法要の当日です。エレベーターホールの窓からは、富士山と北岳が望めます。富士山の日出を満喫した方も、いたようです。朝5時に大浴場に行くと、すでに満員。「今日は本番だからね」「朝食は、6時らっけね」皆、気合十分です。

8時に出発、10時には身延山久遠寺に到着しました。この日も暖かく、屋外ではコートも不要です。本堂では、バスの号車別に列をつくって座りました。久遠寺布教部長吉村明悦上人から「一ヶ寺でこんなに大勢の参拝は、今までになかったことです」と歓迎のご挨拶。そして太鼓の音とお題目で、法要が始まりました。「南無妙法蓮華経…」夕べのホテルでの練習の成果?、堂々と大きな声で唱えることができました。その後の約1時間の法要は、40名の僧侶の読経、和太鼓集団『鼓童』の太鼓と舞いの奉納と、久遠寺本堂ならではの荘厳さでした。散華も声明も、本山ではいつも以上に美しく感じられます。御前様の慶讃文を読み上げる声も、朗々と本堂に響きます。「妙光寺山門繁栄、檀信徒一同和合ならしめ給わんことを。」

目くるめく大法要の後、本堂を出ると春風が私たちを迎えてくれました。大行事を終えて、皆ほっとした面持ちです。坂道を下る足取りも、心なしか軽いように思えます。バス車内でお弁当を食べ、七百年記念の手ぬぐいを受け取って、和気藹々と家路につきました。縁あって妙光寺に集う喜びを感じた参拝でした。

前夜祭

16日・八ヶ岳ロイヤルホテル



司会の吉井さんはNHKのレギュラー番組を持つ

小川住職のご挨拶



三遊亭円歌師匠による祝辞に大爆笑



大滝総代の乾杯



640名の宴会も和やかに



高橋総代の中締め

剃髪姿の初々しい小川良恵さんが、照れながらのご挨拶



新潟からのバス14台が勢揃いした前で小川住職夫妻

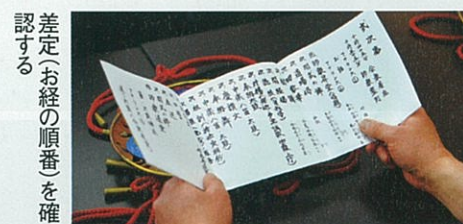
大法要 17日・身延山久遠寺



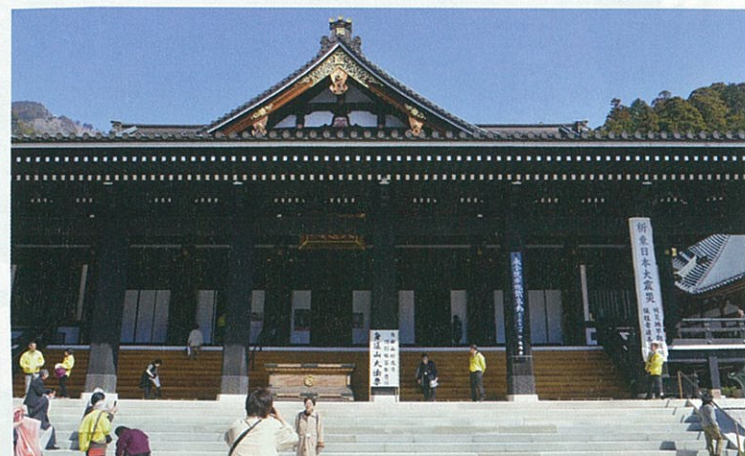
吉村布教部長、歓迎のお言葉



法要前、緊張感あふれる出座僧の控室



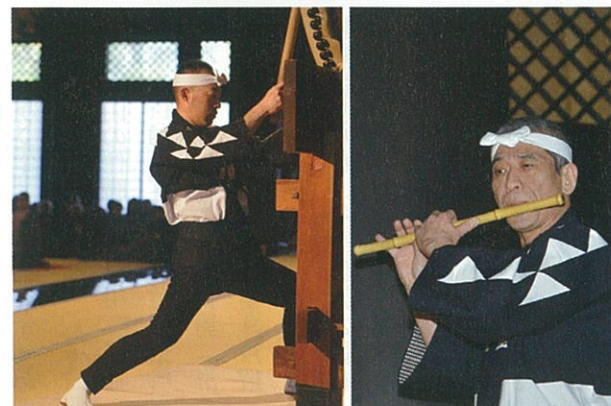
差定(お経の順番)を確認する



青空のもと、大本堂正面



大本堂に入る前の整列



『鼓童』の奉納演奏と舞

小川良恵得度式

得度式とは、師匠となる方に執り行っていただく、僧侶になる入門の儀式です。今まで育ててきてくれた父母に感謝するとともに、自分は仏の子になって、人々を差別なく敬い救済する僧侶になるという誓いの儀式でもあります。

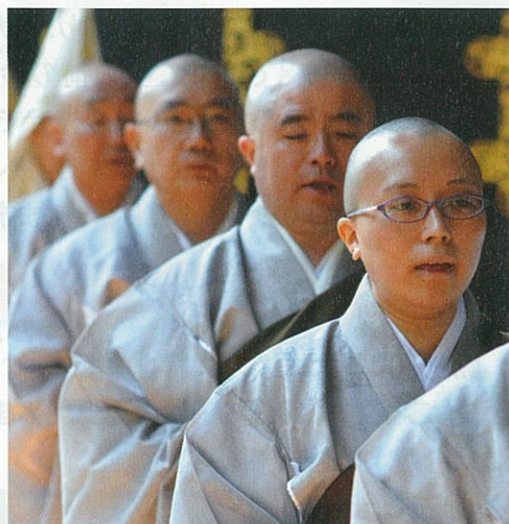
1月28日、師匠をお願いした鎌倉市の円久寺、松脇行真上人のもとで行いました。親族と妙光寺総代ほか檀信徒数名、そして円久寺の檀信徒の方たちが参列されました。後日「参加したかった」との声を多数いただきましたので、写真を掲載します。4月2、3日には千葉県清澄寺で、宗門による『度牒交付式』に出て、沙弥（修行中で半人前の僧侶）の資格が与えられました。



円久寺境内と本堂



参列者一同で



妙光寺開創700年法要に特別許可で出仕しました。右が本人、後ろに松脇師僧



僧名



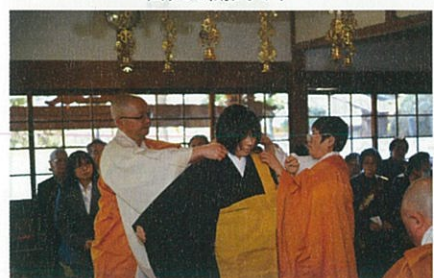
白衣で開式です



両親に挨拶



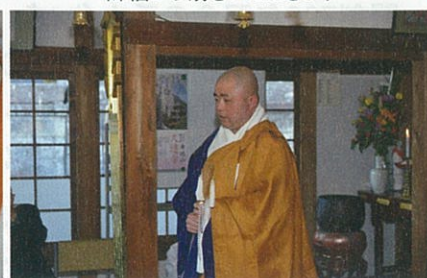
師僧から戒をいただきます



法衣を着けていただきます



法衣の姿で仏様に誓います



師僧の訓示

「開創七百年慶讃大法要は、いかがでしたか？」

機会だったわけ。大勢のお坊さんの法要は、ほんとに素晴らしい音が響いてすごかった。道中にもぎやかだね。楽しかったねえ。」



石田トミ子さん（新潟市西蒲区）

「何十年前も前に七面山に登って、今は2回目。ちよūdい

「大勢で行ったのに、何のトラブルもなく、本当にうれしかった。」「どこに行っても、迷う人もないんだからねえ。」「久遠寺本堂でも、みんなバスごとに二列に並んで、整然と法要ができて、うれしかったね。」「本山に行ったのは5回目だけど、本堂いっぱいの人で法要なんてもちろん初めて。感激らった。」「700人の団体だから県外の親戚には会えないだろうと思ってたけど、部屋を同じにしてみたら、お寺の心づかいに感激したねえ。」「今度は七面山にも登ってみたい。また本山に行ってみてみたね。」

山田キミさん 真島慶子さん
白井悦子さん 河村ミスさん
三輪百合さん 小林むつさん
森英子さん

丸山 雄さん（新潟市中央区）



「前夜祭で大きなホテルに貸し切りで、皆で泊まったのがよかったですね。初めて会う人たちでも、みんな妙光寺の仲間だという気持ちを持つことができました。」

大法要では、『鼓童』の太鼓の響きと舞いが素晴しかった。お寺で芸能をするというのは、どんな感じだろうと思っていたが、最高でした。世界に認められた『鼓童』のステージを、本山で奉納するというのは、初めてでしょうか？感動しました。」

これからも古くからの檀信徒の方たちと、我々のような新しい檀信徒が、交流する場があったほうがいい。参加した皆さんと連帯感を感じて、お寺が生きる人のためがあると実感することができました。」

丸山幸子さん（新潟市中央区）



「とにかく進行の手順に感心しました。700人が滞りなく行って来られて、企画力、進行力が素晴らしい！車中のDVDで、妙光寺の歴史を学ぶこともできました。ここのお寺が一朝一夕にできたのではないということが、よくわかりました。」

今回は妹たちを誘って参加したんです。行く先々で知っている人と挨拶する私たちを見て、妹たちに「本当にいいお寺なんだね」と言われました。うれしかったですねえ。」

鈴木節子さん（新潟市西区）



「農家なので、若いときはずっと忙しくて、お寺参りもろくにできなかったんです。でも、長生きしたおかげで、素晴らしい大法要に参加できた。家に帰ってから、主人に「（参加させてくれて）ありがとう。と言いました。」

石田誠一さん（新潟市西区）



「想像以上に楽しい700年法要の旅でした。私のバスガイドさんは、とても楽しい人で、行きの中からは和んだ雰囲気でした。前夜祭の圓歌師匠の登場は、びっくりしました。素晴らしかったです。法要も本堂に盛大でした。84歳の母が感激して、また身延山に連れて行け」と言ってくれたのが、一番うれいんです。今度は自家用車で、ゆっくり見たい。」

安藤義則さん（新潟市西蒲区）



「身延山へ行くのは4回目、もう80歳になるけど、本当に素晴らしい体験ができました。天候にも恵まれたし、帰りのバスの車中も歌を歌ったりして、本当に楽しい旅でした。」

*この他にも、妙光寺には多くの感謝のお手紙、メールが届いています。（聴いた人・新倉理恵子）